

記念  
講演

## 乳幼児の睡眠と食の大切さ

日本人の生活習慣はこの半世紀に大きく変化しました。睡眠時間は短縮し夜型化しています。食生活も半ば西欧化するとともに、加工食品があふれています。子どもは否応なしに大人の生活習慣の影響を受けます。

現代型栄養失調の問題と睡眠・生活リズムの問題とが相互に影響しあい、発達に強く影響します。

現状は果たして子どもの心身の健やかな発達にとって望ましいものなのでしょうか？現状をただ受け入れるのではなく、批判的に見つめ直して、改善するにはどのような工夫をしたらよいか、一緒に考えてみませんか。

★先着 100 名様で〆切

11月10日(土) 14:00~17:00

ラパスホール

杉田 義郎〔大阪大学名誉教授 関西学院 保健館 学校医・産業医〕

特別  
講演

## 認知症をめぐって

認知症は脳の中に起こっている進行性の病的過程に伴ってみられる機能障害に対して用いられる総称です。認知症患者の増加の中、認知症の診断のために必要な診察と検査は重要です。今回、特別講演でお二人の医師から理論と実践を報告していただきます。

医療分科会では各分野の方々から認知症についての取り組みを報告してもらい、認知症を予防する生活や認知症の理解を深めたいと思います。

11月11日(日) 10:00~12:00

ラパスホール

対話型医療の試み ～ 認知症のケアを通じて ～

今田 隆一〔坂総合クリニック宮城県認知症患者医療センター長〕

講演

都心での高齢者医療と認知症

沖山明彦〔鉄砲洲診療所 医師〕

医療  
分科会

11月11日(日) 13:30~16:30

同ビル  
地下会議室

認知症になっても大丈夫なまちに

千田 富子〔三多摩健康友の会 元薬剤師〕

訪問看護の取り組み

澤登 久江〔菜の花訪問看護ステーション 看護師〕

報告

理学療法士が取り組む認知症

色部 理恵〔ゆたか訪問看護ステーション西品川営業所〕

歯科往診における認知症

会沢 智也〔みその歯科 歯科医師〕

# 子どもたちを真ん中に

私たち保育者は70年前に作られた「30人の子どもたちをたった一人の保育者でまかなう」保育基準にどんなに苦しめられてきたことでしょうか。しかし子ども・子育て支援法でも国は見直しさえしませんでした。

ですからつつい声がけで子どもたちを一斉に動かす保育に<sup>おちいつ</sup>陥てしまいがちです。

それに馴れてしまうと、子どもたちは次の指示を待ち、保育者の顔色をうかがう子、自分を生きていない子に育ってしまいます。

困難な保育条件の中で、どうやって子どもたちが生き生きと遊びながら育っていくことができるのでしょうか。

毎日の保育が子どもたちにとっても保育者にとってもわくわくする、そんな保育を、理論を裏打ちにして実践を紹介しながら学び合ひましょう。


★先着100名様で〆切

11月11日(日)13:30~16:30

ラパスホール

講演

わくわく、ドキドキ、『聞いて聞いて』の日々を送る仲間作り講師

 富岡 美織〔社会福祉法人 北の星東札幌保育園園長〕

育ちたがっている子どもたちを育てる保育 ～ 外発的動機から内発的動機へ ～

 岩倉 政城〔新医協会長／前尚絅学院大学附属幼稚園 園長〕

## 精神科領域分科会

生活臨床は1958年に群馬大学臺弘教授が提唱し、江熊要一助教授らにより取り組みが開始されました。「生活を見ずして治療は出来ない」というモットーの下に患者・家族の生活を中心とした診断と治療体系が形作られました。今回の分科会では生活臨床のこれまでと今後の課題について深めていきます。

蟻塚先生からは沖縄戦のトラウマの後遺症である心的外傷後ストレス障害について語ったあとに、なぜ、医者が最初に発見できなくて保健婦が沖縄戦 PTSD を発見したのか、という講演をしていただきます。

11月11日(日)13:30~16:30


同ビル  
地下会議室

講演

生活臨床のこれまでと今後の課題

 小川 一夫〔群馬 中之条病院副院長〕

晩発性のPTSD(心的外傷後ストレス障害)

 蟻塚 亮二〔福島 相馬市・メンタルクリニックなごみ〕

■司会 伊勢田 堯〔東京都医学総合研究所〕

わが国では、国による HPV ワクチンの積極的勧奨が中止されて 5 年が経過しました。2016 年 7 月に集団訴訟が提訴され、原告 124 名を中心に 4 か所の法廷で争われています。

一方で、ワクチン接種の積極的勧奨の再開を求め、医学会・医師会を巻き込む動きが活発化しています。

副反応症状の因果関係を認めないとする名古屋市調査結果に関する“鈴木論文”に関する論争や、コクランレビューの公表内容をめぐって重鎮役員が解任されるという事態も生まれています。

このような中、新医協では、HPV ワクチン問題は国民の健康にかかわる重要な課題と位置づけ、会長を先頭に検討会を重ねてきました。国民の健康を守る立場を掲げる私たちは、科学的に未決着な課題に対し、今得られる情報を国民に分かりやすく知らせ、課題の解明と公的救済の促進を促す役割を担っています。

分科会に被害者の方を迎え、私たちに何が求められているかを活発に論議したいと思います。

テーマ：HPV ワクチン—国民の健康を守るために、真実の究明を

- 報告
1. 新医協 HPV ワクチン検討会での論点整理から
  2. HPV ワクチン訴訟の焦点（弁護士）
  3. 被害者の訴え（原告）

11月11日(日) 13:30～16:30

全労連会館  
304・305

## 石田秀実先生追悼企画

講演 石田先生の思い出  天満 博

石田先生の遺言  村田 溪子

石田先生の著書

中国医学思想史  宮下 宗三

気流れる体  手塚 幸忠

死のレッスン  渡部 顯

中国医学思想史  新村 孝雄

健康保険で、はりきゅうマッサージを受ける国民の会  坂田 哲也

広島鍼灸マッサージボランティア活動の報告  横山 博恵

11月11日(日) 13:30～16:30

東部区民事務所  
3階研修室2